「プラスチックゴミは出したくない！」

30年前も、今も、それが私たちのあたりまえ

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

臨時号

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL092(481)7923
FAX092(481)7876
http://www.greencoop.or.jp/

プラスチックゴミの問題は 待ったなし！

撮影 福岡県

2050年には海洋プラスチックが魚の量を超える !?[※1]

海に漂う漁網などのプラスチックゴミが身体に絡まり動けなくなったり、エサと間違えて食べたレジ袋などが胃の中に溜まったりすることで、多くの海洋生物の生命が奪われています。また、プラスチックは自然分解されず数百年も残ると言われており、原料や添加剤に含まれる環境ホルモン[※2]も問題になっています。

川から流れ込んだり海に捨てられたプラスチックゴミは太陽光や波、風にさらされ、細分化されてマイクロプラスチックとなります。マイクロプラスチックは有害な化学物質を吸着し、プランクトンや小魚の体内に摂りこまれ、それをエサにする大型の魚や鳥、ほ乳類などの体内に濃縮して蓄積されます。さらに、大気中にも微細なマイクロプラスチックが浮遊していることが分かってきました。私たち人間をはじめ陸上の生物も影響を受けているのです。

日本の１人当たりの使い捨てプラスチック排出量は世界２位！[※3]

日本ではペットボトルなどプラスチックのリサイクルを中国などアジア諸国に頼っていますが、中国が輸入規制を始めたことで、廃棄プラスチックの行き場がなくなっています。アジアの途上国では処理体制が整っていない国も多く、結果的に海に流出する懸念も高まります。

日本で行われるプラスチックのリサイクルは、その多くが燃焼させることにより熱エネルギーを回収・利用するサーマルリサイクルです。しかし地球温暖化が問題になっている中、発熱量の高いプラスチックの燃焼は、CO_2排出を削減しようという流れに逆行するものと言えます。

※1 2016年の世界経済フォーラム（ダボス会議）で試算が報告された（重量ベース）
※2 内分泌かく乱物質。生物のホルモンの働きをかく乱する作用を持つ
※3 2018年の国連環境計画（UNEP）の報告書による

現在、海洋プラスチックゴミやマイクロプラスチックなど、世界中で大量に廃棄されているプラスチックによる環境汚染が大きな問題となっています。私たちが経済性と利便性を追求してきた結果、今、地球の生き物は悲鳴を上げています。国際社会はようやく対策に動き出し、プラスチック削減に取り組む企業も増えています。

グリーンコープは30年前の設立当初から、「経済効率優先の商品ではなく生命（いのち）を育む食べものを」「みどりの地球をみどりのままで」を掲げ、「環境のために、今すべきこと」を考えて資源の再利用やゴミの削減に精一杯取り組んできました。私たちの日常は、今で言うサステナブル（持続可能）な社会をつくることと重なっていたのです。

今、プラスチックを減らすことは私たちの未来のための喫緊の課題。グリーンコープを利用することで、あなたにもできるサステナブルなくらし、考えてみませんか。

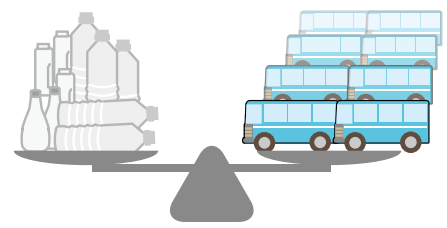
グリーンコープは環境を守るためにできるだけプラスチックを使いません。

プラスチックを使えば安く簡単に商品包材ができるとしても、自然にあるものやリユース可能な素材があれば、できる限りそれを使います。

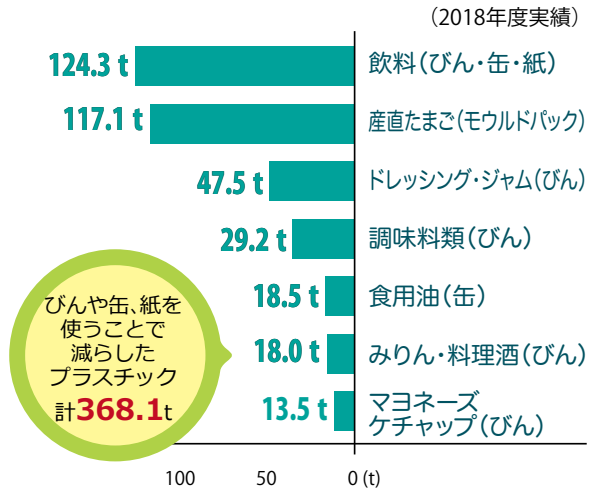
グリーンコープの商品を使うことで

１年間におよそ500トンものプラスチックゴミを削減！

バス 約36台分！
バス1台14tで換算

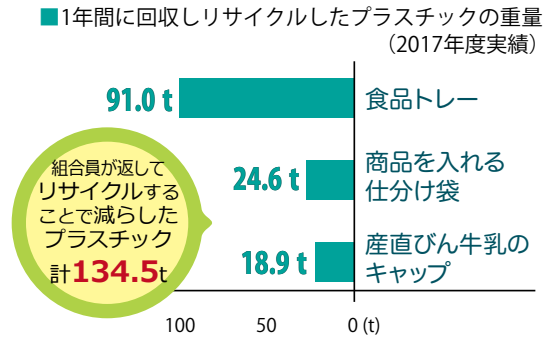


■1年間にプラスチックをゴミとして出さなかった重量
（2018年度実績）



びんや缶、紙を使うことで減らしたプラスチック 計368.1t

■1年間に回収しリサイクルしたプラスチックの重量
（2017年度実績）



組合員が返してリサイクルすることで減らしたプラスチック 計134.5t

市販品の容器・包材(ペットボトル、プラスチックケース、チューブなど)の重量をもとに、グリーンコープ商品の供給実績を換算しています。

組合員から食品容器などを回収して リユース・リサイクルしています

「共生の時代」では、毎月リユース・リサイクル品の回収率を案内しています。

2018年度 リユース・リサイクルデータ（平均回収率）

牛乳びん 回収率 99.1%	リユースびん 回収率 67.1%
モウルドパック 回収率 101.3%	仕分け袋 回収率 10.7%
カタログ 回収率 59.9%	トレー 回収率 44.0%

- 牛乳びん：牛乳工場で洗浄してリユース
- たまごモウルドパック：ダンボールにリサイクル
- カタログ：トイレットペーパーにリサイクル
- リユースびん：洗びん工場で洗浄してリユース
- 仕分け袋：新しい仕分け袋にリサイクル
- トレー：新しいトレーにリサイクル

回収率100%をめざそう！

トレーや仕分け袋の回収率が低いのが残念･･･。資源の有効利用のためにも、みんなでリユース・リサイクルの輪に参加しよう！

グリーンコープの 4R

私たち一人ひとりができること

サステナブルなくらしは意外とカンタン

くらしのゴミを減らし、環境を守るため、グリーンコープは4つのRに取り組んでいます。まずゴミになるものを減らし、びんはリユース、プラスチックを使わざるを得ない場合もできるだけリサイクルすることをめざしてきました。

このリユース・リサイクルのしくみは、どれもグリーンコープが洗びん会社やリサイクルを行う会社、食品メーカーなどの賛同と協力を得て、独自で確立したシステムです。

一般的には「３Ｒ」が呼びかけられていますが、グリーンコープは、Refuseすることも大事だと考え、４つのＲに取り組んでいます。

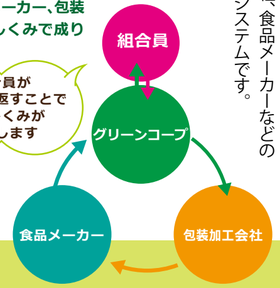
グリーンコープができること

- **Refuse リフューズ【断る】**：店舗などのマイバッグ運動
- **Reduce リデュース【減らす】**：プラスチックの総量を減らす／詰替え商品をつくり、ゴミになる容器を減らす
- **Reuse リユース【再使用】**：使い終わった容器を洗浄して再使用
- **Recycle リサイクル【再生利用】**：トレーや仕分け袋、古紙などを回収して再生利用

私たちができること

- 過剰包装を断る／マイバッグを持参してレジ袋を断る
- ゴミをなるべく出さない／詰替え商品を利用する
- 使い終わったリユースびんを洗って返す
- 使い終わったトレーは洗って返す／仕分け袋等のリサイクル品も返す

グリーンコープのリユース・リサイクルは、組合員、食品メーカー、包装加工会社が協力するしくみで成り立っています。



グリーンコープの４Ｒについては、今週配布の「めグリーンコープ４Ｒガイド」を見てね！

リユース・リサイクルするものの返し方も詳しく案内しています。

容器などの返し方は動画もチェック！

（グリーンコープ生協ふくおかいのちとくらしの委員会制作）

持続可能な社会の実現を グリーンコープのプラスチック削減 30年のあゆみ

いつの時代も変わらない母親たちの願い

１９６０年代の高度経済成長期以降、世の中が豊かで便利になるにつれ、大量消費・大量廃棄をする社会が生まれ、家庭から出るゴミの量も年々増加していました。そんな中、「生命（いのち）を大切にしたい」「食べものを大切にしたい」と、家族の健康と環境を大事に思う母親たちが運動を始めます。

グリーンコープの前身生協時代、九州で初めて牛乳パックをトイレットペーパーなどにリサイクルするなど、自分たちにできることから環境を守ろうと取り組んでいました。

プラスチックはできるだけ「使わない」を選択

１９８８年にグリーンコープが誕生してからも、食の安心・安全と環境を守ることを追求してきました。その姿勢は商品の包材にも貫かれ、食べものと同じように安心・安全で環境を汚さないものを、と検討がすすみます。

商品をつくるにあたって大切にしたのは、どうしても欠かせない容器・包材は、昔から使われてきたびんや缶を使うこと。そして便利さや安さに流されることなく、プラスチックの総量を減らすこと。食品包材からプラスチックを減らす、多少の不便はかかえても、びんのリユースをすすめ、ゴミの排出量を減らし、自然と資源を大切にすることなどをめざしました。

また、塩化ビニルがプラスチックゴミとして焼却される時に発ガン性物質ダイオキシンを発生させることが明らかになり、ゴミとなった場合の害をはじめから想定して、食品包材には塩化ビニルを使わないことになりました。後に多くのプラスチックに環境ホルモン物質が含まれることも分かり、使用せざるを得ないプラスチックの材質についても検討が深められます。

リユース・リサイクルの先進的な取り組み

１９９６年からは、びんのリユースが実現。１９９９年には日本初となるトレーtoトレーのリサイクルがスタートします。同年、たまご容器としてモウルドパックが採用され、回収とダンボールへのリサイクルも始まりました。組合員はその時々の「今できること」を最大限に実現していきました。

グリーンコープの「環境政策」

２０００年には、それまでの基本的な考えをまとめた「グリーンコープ環境政策」が策定されました。その中には、食・水・緑を軸とした循環型共生社会をつくること、４Ｒ運動を実践することなど、現在につながるグリーンコープの環境運動の根幹があります。家庭でも、不必要な物は買わないことやリサイクル、ゴミを出さない生活をすることなど、できることに取り組もうとなっています。

同年、「グリーンコープの容器・包装ガイドライン」が定められ、包材自体の総量削減をめざすことになりました。また、※ペットボトルの不使用、店舗でのマイバッグ運動を積極的に行うなど、プラスチックゴミを出さない取り組みをさらにすすめることになりました。

２００３年、牛乳のびん化が実現し、同時に牛乳びんのリユースがスタート。２０１０年には組合員の長年の要望に応え、仕分け袋のリサイクルも実現しました。２０１４年にはカタログのリサイクルも始まっています。

※一部店舗では取扱い

まだまだやれることはたくさんある

できればプラスチックを使いたくない、けれども使わざるを得ない悩ましさをかかえつつ、組合員は開発する商品ごとに検討を重ねました。例えば、一般に流通しているカップ麺は便利ですが、安全とは言えず、ゴミを排出するため、グリーンコープではカップを使用しない形を採用。また紙容器飲料のストローについても、基本的には添付しない方針のもと、組合員からの要望を受けて、添付するかどうか商品ごとに丁寧に検討しました。どの検討を行う時も、極力プラスチックゴミを出さない方法を考えると同時に、便利さを求める組合員の要望にもしっかりと向き合い検討を重ねていく姿勢は、現在も変わりません。

30年前からつないできた環境を守りたいという母親たちの想いのバトン。安心・安全な食を育む環境を、胸を張って次の世代に手渡すためにも、グリーンコープ運動をしっかりと伝え、これからもできることを一つひとつ考えていきます。

組合員

社会の流れに抗って「こうありたい」を貫いてきた

グリーンコープ生協ふくおか組合員元連合組織委員会 担当組合員事務局 **松田 節子**さん

１９７０～８０年代、グリーンコープの前身生協は、それぞれに環境を守る取り組みをしていました。私がいた生協では、食品包材にはびん、紙、缶を使用し、プラスチックトレーはありませんでした。

１９８８年にグリーンコープに統合して規模が大きくなり、商品の包材にもプラスチックが検討に上るようになりました。“今”は安全でも、人間がすることに完璧はあり得ないと思います。時間が経過すると新たな問題が浮上してくるものです。そういう視点から、どうしてもプラスチック包材にはしたくないと、検討の度にみんなで意見を闘わせてきました。マヨネーズやケチャップもチューブではなくびんを選択。商品を検討する時には、容器も食べものとセットで考えてきました。

大切にしているのは、子どもの健康を守る母親の視点。食べものの安全性と共に、容器も安心できるもの、環境に負荷をかけないものにこだわりたい。どんなに社会が便利な方に流れようとも、グリーンコープの組合員は、自分たちの「こうありたい」を貫いてきたんです。

循環型リサイクルシステム グリーンコープ独自の トレーtoトレー

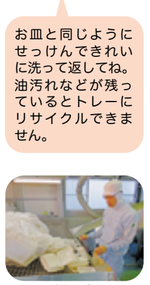
世界初!?

ゴミの削減と安心・安全を目的に、１９９９年に始まったトレーのリサイクル。プラスチックはゴミになるか、他のものへのリサイクルが当たり前だった当時から、同じトレーへのリサイクルは画期的なことでした。

当初、トレーの材質はポリスチレンに決まり、当時のグリーンコープ生協（福岡）での実験展開を終えて、オールグリーンコープでの取り組みがスタートしようとしていました。その矢先に環境ホルモンの問題が浮上したため、ポリスチレン製のトレーを断念。組合員は一から検討をやり直すことを決めました。

安全なトレーをつくってくれるメーカーを探し、出会ったのが、㈱エルパッケージでした。そしてついに環境ホルモンが溶出しない、ＰＰ（ポリプロピレン）とＰＥ（ポリエチレン）を原料に、強度と耐冷性を高めるタルクを添加したトレーが実現したのです。

お皿と同じようにせっけんできれいに洗って返してね。油汚れなどが残っているとトレーにリサイクルできません。



トレーに汚れがないかチェック！

ペレット

工場内は食品工場と同等の衛生管理を徹底

ねえ知ってる？ 私たちの使っているトレーは、20年前のプラスチックも原料になっているってコト。ずっと前からサステナブルな形をつくってきたんです。

容器断面図

- 表層 0.015mm 新品樹脂（ポリプロピレン）
- 中心層 0.47mm 中心層は新しい原料＋再生原料（約50%）
- 裏層 0.015mm 新品樹脂（ポリプロピレン）

食品が触れる表面には新品樹脂を使用

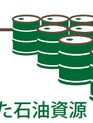
ここに回収されたトレーが使われています

中心層に使われる新しい原料 PP（ポリプロピレン）＋PE（ポリエチレン）＋タルク

安全 環境ホルモンが含まれない樹脂原料を使用

丈夫 トレーに溝をつけることで強度が上がり、包装フィルムをかけても曲がらない

耐性 冷凍にも耐えられる耐冷、耐衝撃性のトレー（-30℃～120℃の耐性）



節約した石油資源

トレーをリサイクルすることで、新しいトレーをつくるための石油を、16年間でドラム缶（200ℓ/本）**12,100本分 節約！**

（2000年～2016年度計）

（㈱エルパッケージ資料による）

トレーtoトレーを実践 包装加工会社

最初は無理だと思ったけど 組合員さんの熱意に引き込まれました

㈱エルパッケージ 代表取締役社長 **内田 誠**さん（当時 工場長）

トレーtoトレーは業界初の試みでした。使用済みトレーを組合員さんがきれいに洗って返してくれて、初めて成立するシステムです。最初は衛生管理面でとても難しいと思いました。

しかし、当時の組合員さんはプラスチックについて勉強し、熱心に訴えてきました。その熱い想いに我々が引き込まれたんです。

安全なトレーを届けるということに真剣に向き合い、改善していくうちに、我が社も環境やヒトにやさしい商品づくりへとシフトしていきました。

トレーtoトレーを、組合員さんの力で20年も持続できるって、とてもすごいことなんですよ。これからも続いていくよう、もっと回収率をアップさせてほしいですね。

トレーtoトレーを実践 産直若鶏生産者 食品メーカー

ぶれずに信念を貫き通す グリーンコープ

㈱秋川牧園 取締役 **甲斐 利光**さん

ずっと以前はポリスチレン製のプラスチックトレーを使っていましたが、その後、グリーンコープでは紙トレーを採用され、しばらく続いた後、現在のリサイクルトレーに変更されました。

紙トレーに変わった時、「グリーンコープは本気で環境問題に取り組んでいるんだ」と感じました。だからリサイクルトレーに変更になった時も特に驚きはありませんでしたが、「やっぱりグリーンコープは妥協しないな」と思いました。

改めて考えると、トレーからトレーへのリサイクルや、ケチャップの容器をリユースびんにするなど、世間では考えられないことをグリーンコープはやってきました。常にぶれずに、いいことはきちんとやるのがグリーンコープだと思います。

これからも、世間におもねることなく、グリーンコープの道を歩んでほしいと願っています。

あたりまえすぎて気付かなかったけれど、実は30年前から SDGsを実践していました。

グリーンコープは、30年前の設立当初から、「生命（いのち）に寄り添う」生協として、生命を育む食べものを大切にし、安心・安全な食べものを生み出す環境を考え、また平和のためにさまざまな運動をすすめてきました。

今、世間ではSDGsを掲げる企業や団体が増えています。SDGs（エスディージーズ）とは国連が2015年に採択した「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」にまとめられた17の目標。「誰ひとり取り残さない」をキーワードに、今世界で起きている地球環境や気候変動、貧困、エネルギーの問題などの解決に向けて、2030年までの達成をめざしています。

SDGsに掲げられた目標は、グリーンコープが生命を大切に思い、ずっと取り組んできた運動とめざすところは同じ。私たちが当たり前にしてきたことでした。

Sustainable Development Goals
サステナブル　ディベロップメント　ゴールズ
持続可能な開発目標

①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現しよう ⑥安全な水とトイレを世界中に ⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩人や国の不平等をなくそう ⑪住み続けられるまちづくりを ⑫つくる責任つかう責任 ⑬気候変動に具体的な対策を ⑭海の豊かさを守ろう ⑮陸の豊かさも守ろう ⑯平和と公正をすべての人に ⑰パートナーシップで目標を達成しよう

SDGs × グリーンコープ

環境を守る取り組み

グリーンコープ運動はすべてのSDGsの項目にあてはまりますが、
今回は環境を守る取り組みにスポットを当てて紹介します。

エネルギーをみんなに そしてクリーンに

脱原発運動
原発は「いのち・自然・くらし」を脅かすもの。チェルノブイリ原発事故以来、一貫して脱原発をめざしています。

グリーンコープでんき
原発のない社会の実現をめざして、自然エネルギーの発電所づくりや、電気の共同購入の取り組みをすすめています。

つくる責任 つかう責任

4R運動
環境を守るために、くらしのごみを減らすとともに、商品の容器・包材はできるだけリユース・リサイクルしています。

ファイバーリサイクル
衣類のリユース・リサイクルと、生活困窮者の自立支援、国境を越えた子育て支援を目的に取り組んでいます。

気候変動に具体的な対策を

プラスチックゴミの削減
容器・包材のプラスチックの量を減らし、リユース・リサイクルすることに取り組んでいます。

フードマイレージ
輸送に伴い発生するCO_2排出量を少なくする取り組み。国産のものを食べることで削減されるCO_2を、ポコ(POCO)という単位で表しています。

4R運動

グリーンコープでんき

海の豊かさを守ろう

せっけん運動
環境にも人にもやさしいせっけんを、生活のあらゆる場面で利用することをすすめています。

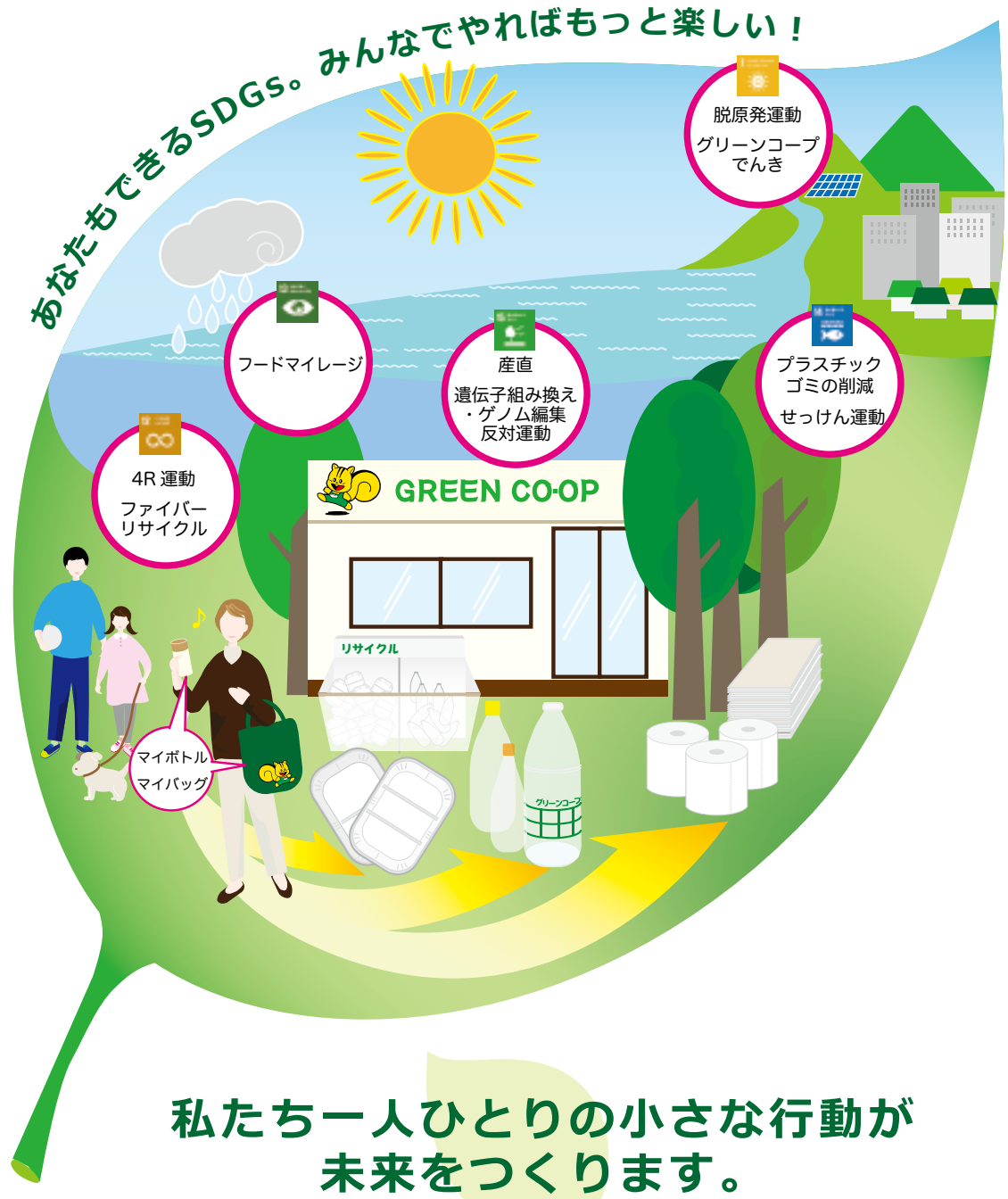
プラスチックゴミの削減

陸の豊かさも守ろう

遺伝子組み換え作物・食品(GMO)・ゲノム編集食品 反対運動
危険性が指摘されているGMOやゲノム編集食品に一貫して反対し、規制と表示を求める署名運動などを行っています。

産直―農薬を減らした農業
化学合成農薬や化学肥料を不使用または減らした栽培を、産直生産者と共にすすめています。

プラスチックゴミの削減



私たち一人ひとりの小さな行動が未来をつくります。

グリーンコープが30年という時をかけて生みだしてきた容器やリユース・リサイクルのしくみ。そのおかげで、今私たちはグリーンコープを利用することで、プラスチックゴミを減らした生活をすることができます。それはつまり、SDGsを実践すること。

不必要な容器・包装は断る、マイボトルを持つ、リユース・リサイクル品をきちんと返すなど、私たちにできることはたくさんあります。一人ひとりの小さな行動の積み重ねが、これからの地球環境、子どもたちの未来を変えるはず。

グリーンコープの「循環の輪」に参加して、いっしょに持続可能な社会をつくっていきましょう。